

進路指導を援助を推進するためのPTA活動について

千葉県立八街高等学校PTA
研修委員長 加瀬 梢

1 学校紹介

八街高等学校は、1946(昭和21)年に八街町立八街高等女学校としてスタートしました。1958(昭和33)年に県立高校に移管され、1997(平成9)年に県内最初の総合学科が設置され、現在、全12クラスの総合学科の高校となっています。

1年次では、まだ選択科目は少ないものの、2年次からは生徒各自が科目を選択し、自分で1週間の時間割を作成していくことになります。他の学校にはない特色ある科目もあり、それぞれの進路実現に向けて、多様な学びを行っています。

こうした学校環境の中、八街高校PTAは、約480名の生徒の保護者と、51名の先生方が会員となっています。

2 PTA活動

保護者は、各クラスから4～6名選出された役員が活動の中心となります。役員は4つの委員会に所属します。また、役員の中から会長・副会長・各委員会委員長・学年長などが理事として選出されます。

PTA活動の中心となる4つの委員会の、主な活動は以下の通りです。

(1) 広報委員会

広報委員会は、7月と3月に発行される「PTAだより」の編集を行っています。7月は8ページ、3月は12ページの編成で、生徒たちの学校での活動取材して、写真と文章で紹介しています。また、PTA活動の報告を掲載しています。4年前から4ページ分がカラーとなり、広報委員のみなさんも編集に力が入っています。



(2) 企画委員会

企画委員会の中心的活動は、11月に行われる、八街高校の文化祭「野積

祭」での模擬店です。ここ、20年ほどは、焼き鳥と豚汁を保護者のみなさんでつくって、販売しています。生徒たちにも好評で、3000本の焼き鳥と500～600杯の豚汁を完売します。利益は生徒会に全額寄付します。役員さんがもっとも多く参加する活動で、全員で楽しく活動ができています



(3) 研修委員会

研修委員会の活動は毎年10月に行っている「研修旅行」と2月の「学習会」です。研修旅行は、工場見学としてクロネコヤマトの配送センターや、茨城にあるめんたいこ工場などに行きました。また、「貨幣博物館」「迎賓館」などに行った年もあります。

2月に行われる学習会は、以前はレクリエーションの企画でした。しかし、なかなか人が集まらず、思い切って3年前から「学習会」としてはじめたものです。これまでに、消防署の方をお迎えして「救急救命講習」を行ったり、LINE社によるSNSの安全な使い方講習などをおこなってきました。参加人数は決して多いとは言えませんが、役員の方だけではなく、一般会員の方の参加もみられ、徐々に広がりを見せています。



(4) 生徒指導委員会

生徒指導委員会は、年間5回の校門指導を行っています。具体的には、登校する生徒のみなさんの交通安全の確保と見守り、そして挨拶運動です。大きな



声で挨拶を返してくれる子もいますし、恥ずかしそうに前を通り過ぎる子どももいて、本当にさまざまな生徒たちがいることを肌で感じさせてくれます。何回か繰り返し挨拶をしているうちに、笑顔を返してくれる子もいて、こちらもうれしく感じることもあります。そうしたこともあって、以前は年4回だったものを、年5回に増やして頑張っています。

今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、さまざまな行事が中止となっています。PTAの活動も、総会が書面決議となったり、文化祭が実施できなかつたり、「PTAだより」のページ削減、といったことが起こっています。そうしたなかで、校門指導は予定通り行っています。

さて、今回のテーマである「進路指導の援助」についての活動を述べたいと思います。しかし、先にも触れたように、今年度は、さまざまな活動が中止になっていますので、例年の活動を含めての御報告となることをお許しください。

(5) 八街高校の進路指導

これまで八街高校PTAが、実際に進路指導の援助を具体的にやってきたかと問われたら、「そうした観点で活動をしてきたことはありません」と正直申し上げるしかありません。

学校全体としては、先生方の進路指導部が主催する行事は、さまざまあります。八街高校は就職を希望する生徒が多いため、生徒向けに本当にきめ細かく、説明や指導を行っていただいています。もちろん、進学希望の生徒も増加しているため、そうした生徒への対応もあります。保護者向けにも、PTA総会の時に行われる進路説明会(分野別)があります。また、担任の先生から配布されるさまざまな資料は、子どもと保護者が、ともに進路を考える機会を与えてくれています。



さらに、八街高校は、総合学科ということで、「産業社会と人間」という科目が設定されていて、進路決定に向けてのさまざまな体験や授業が組み込まれています。

(6) 進路学習会

先ほども触れましたが、こうした先生方の取り組みに対して、保護者は受け手として参加するだけでした。どこの学校でも行われている保護者面談を利用してのやり取りが唯一、保護者自らがかかわるものであったと思います。こうした現状に対して、今回、県高P連の研究集会での報告があることをよい機会にしよう、という話が昨年度から役員会でも出ていました。

その第1弾として、昨年度末、従来から行われていた研修委員会の「学習会」を利用して、PTA主催の「進路学習会」を開催しました。進路指導部の先生を講師にお迎えしての開催でした。全校の保護者に参加を呼び

かけましたが、15名の参加でした。それでも、これまでと違い保護者からはさまざまな疑問が具体的に出されていて、また、先生方もそれに対して具体的に答えてくださっていたのが印象的でした。ただただ、受け身になるのではなく、先生と子どもに任せるだけでなく、子どもに押しつけるのではなく、保護者も進路決定や支援に具体的にかかわろうとする第1弾だったと思っています。



また、今年度に向けては、生徒向けに行われている「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」という授業への、保護者への参加をお願いしていて、子どもたちがどのようなことを学び・体験しているかを保護者も参加して学習し、体験することを計画していました。残念ながら、今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、保護者の参加はできませんでした。

3 まとめ

「進路指導の援助」ということで、八街高校PTAでは、保護者の主体的な活動として「進路を考える」ということに取り組みはじめました。まだ、緒についたばかりで、具体的にすすんでいるわけではありません。それでも、先生方との話し合いの中で、生徒が受けている授業にも参加できる目途がたっています。

保護者が自ら発信することはなかなかできていませんが、今後も機会あるごとに「参加する」という形を徐々に広げていきたいと思っています。まだまだな私たちが、先生方と協力しながら、「子どもたちと進路をともに考えていく」ということを実現していきたいと思っています。